

ファッション造形基礎におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」から授業の在り方等の研究とその成果の普及

1 はじめに

被服製作において、実習を行う時には教員が本時の内容を説明し、示範する。内容を理解した生徒はすぐに実習を進めることができるが、大半の生徒は示範の内容は理解していても実際に手を動かし、先のことを考えながら実習を進めていくことはできない。その都度、テキスト等で確認し、それでも分からないときは教員に再度説明を求めてくる。被服実習は個々の作品を製作するため、個人授業になりがちである。しかし、「主体的・対話的で深い学び」を求めるなら、生徒同士で協議し合うことも大切であると考えます。そこで、ICTを活用し、生徒同士が高め合える家庭科の授業を研究し、その成果の普及を目指す。

2 単元の概要

- (1) 科目名 ファッション造形基礎
- (2) 対象生徒 生活文化科1年7組前半20名、1年8組前半20名
- (3) 使用教材 ファッション造形基礎（実教出版）
- (4) 単元名 和服の製作（じんべい）

3 単元の目標

- (1) じんべいの構成と名称が理解でき、既製の型紙の扱いが適切にできる。
和裁の手縫いの方法を理解し、適切に縫うことができる。【知識・技術】
- (2) 基礎の縫製技術が身に付いたか自己評価し、改善点を考えることができる。
個性・着用目的などを踏まえて適切な材料を判断し、選択することができる。
材料に応じた印付けの方法、効率的な縫製について考え、判断することができる。
【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 和服の種類や製作技術に関心を持ち、意欲的に製作しようとしている。
準備・片付けを主体的に行っている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
和裁の基礎縫い じんべいの作品 定期考査（6割）	毎授業後に記入する振り返りシートの内容 じんべいの作品記録の内容 定期考査（4割）	和裁の基礎縫いの提出 じんべいの製作進度 じんべいの提出 振り返りシートの提出 じんべいの作品記録の提出 夏季休業中の課題

		(えり・ひも作り) 授業の準備 (忘れ物・片付け等)
--	--	----------------------------------

5 指導と評価の計画（30 時間）

第1章 製作の基礎	4 時間
第1節 和服とは	(0.5 時間)
第2節 和服の素材	(0.5 時間)
第3節 製作のための用具と基本的な技法	(3 時間) …本時
第2章 製作例	23 時間
第1節 簡単な和服の製作	(23 時間)
まとめ	3 時間
事例検討	(3 時間)

6 指導計画

※○印は評定のために用いるもの。

時間	学習活動	評価		評価規準・評価方法
		観点	記録	
第1章				
【ねらい】 じんべいの構成と名称が理解でき、既製の型紙の扱いが適切にできる。 個性・着用目的などを踏まえて適切な材料を判断し、選択することができる。 和裁の手縫いの方法を理解し、適切に縫うことができる。このとき、タブレットを用いて示範を動画に収め、再度確認するときに活用する。				
1 ・ 2 ・ 3	・ じんべいの構成と名称	知	○	・ 定期考査
	・ 既製の型紙の扱い	思		
	・ 和裁の手縫いの方法	知 主	○	・ 和裁の基礎縫い
第2章				
【ねらい】 基礎の縫製技術が身に付いたか自己評価し、改善点を考えることができる。このとき、ルーブリックを活用し、工程ごとでの自己評価はタブレットを用いて行い、分析する。 材料に応じた印付けの方法、効率的な縫製について考え、判断することができる。 製作技術に関心をもち、意欲的に製作しようとしている。				

・じんべい製作	主 主 思 主 思 主 主 主 知 思	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・じんべいの製作進度 ・じんべいの提出 ・毎授業後に記入する振り返りシート じんべいの作品記録 夏季休業中の課題 (えり・ひも作り) 授業の準備 (忘れ物・片付け等) ・定期考査
まとめ 【ねらい】生徒同士で協議し合い、「主体的・対話的で深い学び」を求める手段の一つとしてICTを活用する。			
・振り返りシートを読み直す ・工程ごとの自己評価を見直す	思 主 思 主	○ ○	・ワークシート ・ワークシート

7 成果と課題

生徒にじんべいの製作過程において、ロイロノートのアンケートを使って集計したところ、9割の生徒が和裁の基礎縫いを正しく行うことができていた。このことは生徒向けの基礎縫いの教材を点検した内容ともほぼ同じであった。このアンケートが和裁の基礎縫いの各自の振り返りにもなるため、今後も引き続き活用していきたい。

また、教員が指導している様子を教員用タブレットで生徒に撮影させ、参考動画として生徒に配信したところ、7割の生徒が動画を視聴し、基礎縫いの参考にしていた。このように生徒が製作している教材の内容を授業の雰囲気のまま動画撮影し配信することで、主体的に学ぶ姿勢が見られた。教員は授業で行っている説明を生徒に動画撮影させるだけで、参考動画として配信できるので非常に簡単で便利なツールとなった。今後は他学年の指導や被服実習を行う他教員にも活用してもらえるよう広めていきたい。

最後に生徒同士の対話的な活動におけるICTの活用としては、教員が配信した動画を数名の生徒で視聴しながら教え合う様子も見られた。被服実習は個人での活動になりがちだが、今回のようにタブレットを活用することで各自の確認作業以外にも、生徒同士で確認し合うツールとなる。今後は生徒が実習する様子を各自もしくは二人組になり、各々がタブレットで撮影したものを教員に送り、手縫いやミシン縫いの実習に誤りがないかを確認したり、どうしたらもっときれいに製作することができるのかアドバイスをしたりするツールにしていきたい。来年度に向けて検討する必要がある。